

みまきっこまんなか応援まちづくり事業

基本計画

久御山町

はじめに

第1章 みまきリサーチ

1-1 みまきの基本情報 2025 08

巨椋池とともに発展した歴史と現在の久御山町の地区
風土に根差した文化と自然環境
限られた交通手段と小学校区
地区の集いの場「公会堂」
川とともに生きるまちの災害ハザード

1-2 みまきを知る・楽しむ・記録する 18

- イベント・ワークショップ・ヒアリングを通じた情報収集と共有 -
久御山町・みまき地区におけるイベント・ワークショップ・ヒアリング
みまきの人々とその声

1-3 みまきを特徴づける場『みまきマップ』 22

1-4 みまきで重ねられた時間『みまき年表』 24

これまでの出来事と活動
近年の出来事と活動
みらいへの希望・みらいの物語

1-5 みまきの今昔遊び図鑑 30

1-6 みまきのあそびやあそび場を特徴づける要素図鑑 32

「農・ビニールハウスのしつらえ」図鑑
「共同の場のしつらえ」図鑑
「道具」図鑑

1-7 みまきっこまんなか応援村 7つのコンセプト 38

- ソフト・ハードの傾向から -

第2章 みまきっこまんなか応援村 建築計画

2-1 みまきっこまんなか応援村の機能 42

既存施設・上位計画・基本構想からみた必要機能
ヒアリングからみた必要機能
本計画における「理想の機能」とは？

2-2 みまきっこまんなか応援村の規模 48

理想の機能からみた他事例の平均規模と「タイムシェア」
複数機能のタイムシェアの事例と「本計画のタイムシェア」

2-3 みまきっこまんなか応援村の立地 52

本計画の候補地とその比較
本計画にふさわしい土地の特徴について
候補地の法規概要と計画要点

2-4 計画地における動線計画・配置計画 58

計画地における動線計画 / 歩車分離と周囲の整備
建物の配置計画の可能性について

2-5 事業スケジュール 62

メンバーリスト

参考文献・参考図書

※「みまきっこまんなか応援村」は仮称ですが、この計画書は便宜上「仮称」は省略しています。

はじめに

久御山町では、これまで、子どもに関する施策の充実に取り組んできました。しかし、全国的な傾向と同様、少子化の進行には歯止めはかからず、約40年前はおおよそ350人であった出生数は、10年前は129人、5年前は85人、そして令和6年度は72人と減少しています。

一方で、核家族・共働き世帯が増え、地域のつながりも希薄化しています。仕事と育児の両立で忙しい子育て家庭は、助けを求められる人が身近におらず、家庭の中で大変な思いをしながら子育てをしている状況に陥りがちです。

かつて、子どもたちは、年齢に関係なく集まり、地域で遊んでいたのが、年上の子どもが年下の子どもの面倒をみるということが自然に起こりうる環境でした。また、地域の方たちが、地域の中で遊ぶ子どもたちを見守っていたので、父母が農業などに携わり忙しく働いていても、子どもたちは地域のなかで育っていくことができました。

コロナ禍において、「きずな」の大切さを実感した今、かつてのように、子どもたちが地域のなかで育つ環境をつくりたいと考え、「御牧地域」をモデル地域とした「みまきっこまんなか応援まちづくり事業」を開始しました。今後は、この取組を「佐山」、「東角」両地域にも拡大し、久御山の子どもたちを久御山の中で大切に育てていく環境をつくることを目指しています。

「地域での子育て」は、子どもの健全な育成や子育てへの安心感につながり、さらには少子化対策にもつながります。また、地域全体で取り組むことにより、地域コミュニティの活性化という効果も期待できます。

このように、「地域での子育て」は多方面での有益な効果が見込めますが、実現するためには、地域の方々のご理解、ご協力が必要不可欠であります。まずは「御牧」、そしてその後は「佐山」、「東角」で、地域の方々との連携を図りながら、「地域での子育て」について丁寧に検討を重ねてまいります。



第 1 章

みまきリサーチ

1-1 みまきの基本情報 2025

1-2 みまきを知る・楽しむ・記録する

- イベント・ワークショップ・ヒアリングを通じた情報収集と共有 -

1-3 みまきを特徴づける場『みまきマップ』

1-4 みまきで重ねられた時間『みまき年表』

1-5 みまきの今昔遊び図鑑

1-6 みまきのあそびやあそび場を特徴づける要素図鑑

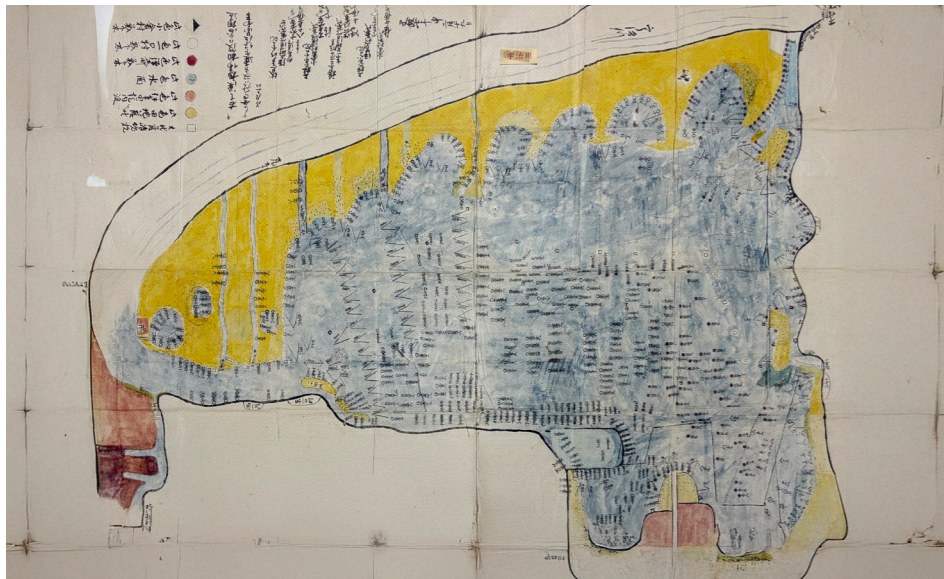
1-7 みまきっこまんなか応援村 7つのコンセプト

1-1 みまきの基本情報 2025 巨椋池とともに発展した歴史と現在の久御山町の地区

久御山町・御牧地区のかつての姿



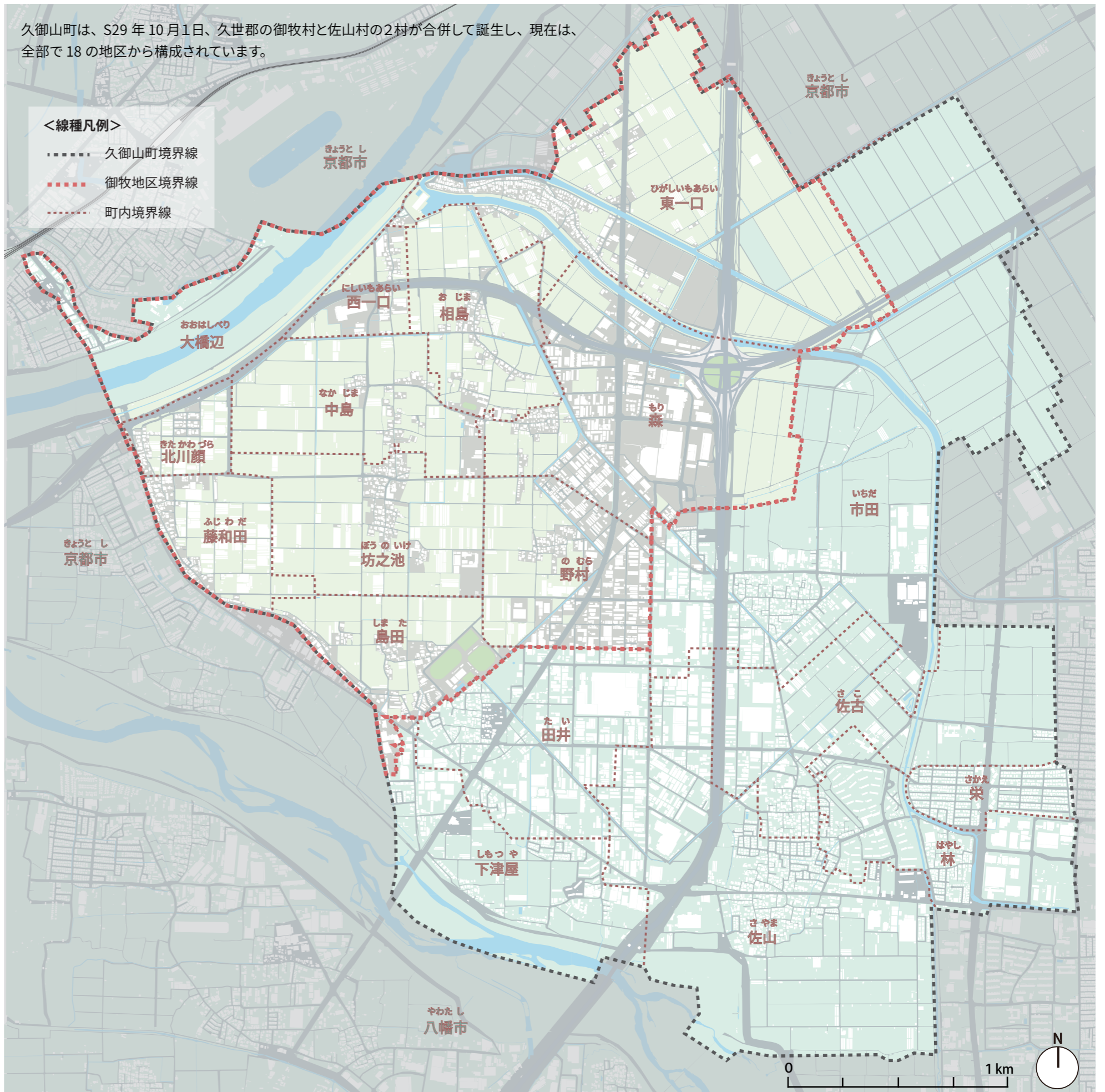
大池古図。大池に流れ込む河川と大池周辺の集落や山々の地形、淀城周辺から下流域の俯瞰を描いた絵図。(旧山田家住宅にて撮影)



巨椋池の主な漁法である浸木(しぎ)と鮎(えり)を仕掛けた場所が描かれている。おびただしい数の仕掛けが沿岸に設置されたため、農民との間で利害関係をめぐる論争がしばしば起きた。(旧山田家住宅にて撮影)



昭和7年、干拓の前年に撮られた航空写真より、巨椋池の全体像。(巨椋池まるごと格納庫にて撮影)



1-1 みまきの基本情報 2025 風土に根差した文化と自然環境

歴史的背景とみられる場所

久御山の地は地名や「日本書紀」からも読み取れるように、巨椋池周辺を中心に稲作によって栄え、平安時代に入ると、皇室領として御牧に美豆の牧、佐山には御厨が設けられるなど、朝廷との深い関わりがありました。町内には、平安末期から鎌倉時代にかけての古仏、また寺社や史跡も多く残されており、当時の文化をうかがい知ることができます。御牧地区においても旧山田家住宅や玉田神社、光明寺など地域で親しまれている歴史資源が多くあります。例えば、旧山田家住宅の長屋門は、改修工事後 H29 年より一般公開されており、歴史を学ぶ場として活用されています。



旧山田家住宅：淀川・巨椋池の漁業者の代表として御牧郷 13 カ村をまとめる大庄屋であった。その長屋門は東西約 27 メートルの壮大なものである。

まちの活力を生む文化と行事

久御山町は古くからの祭りや行事がしっかりと根付いた地域で、一年を通して様々な行事が行われています。御牧地区のものをみると、とんどのように古くは宮中で行われていた行事であったり、大干ばつのが起こったことから始まった土割祭りなど、地域の文化的背景がよく表れています。また、地域の病院でのお祭りなど、私設で開催されている催しもあり、地域の人々の楽しみとなっています。

みまき地区の農と食

昭和に起きた米騒動を発端に国営事業として巨椋池の干拓が行われ、広大な田畑のある今の久御山町の姿となりました。当初は稲作中心でしたが、都市近郊地として収益性の高い野菜等の畑作へ転換してきています。「淀大根」のような地域ブランドとして定着しているものもあります。特に御牧地区は面積の大部分が農地であり農業が盛んな地域です。また、御牧地区にはかつての巨椋池の恵みと信仰が結びついた特色ある食文化があります。当時御牧の巨椋池沿岸の人々は漁業を生業としながら地主から田畑を借りて農業を行う「半農半漁」の生活を送っており、その名残りが郷土料理に表れています。特にそれらは願いをこめてハレの日に食され、行事とともに大切に守り伝えられてきました。



まちの自然環境

久御山町は東部には市街地が形成され、北部の御牧地区には巨椋池干拓に由来する田畑が広がっています。町域の大部分は、宇治川と木津川に挟まれ、南から北に緩やかに傾斜する平坦な地形です。また、南東部から北部に向かって古川が流れ、宇治川に注いでいます。山城盆地の中央部に位置することで、冬は「京の底冷え」で寒さが厳しく、夏は高温多湿という四季のはっきりした気候が特徴です。堤防沿いや河川敷には季節ごとに様々な草花が咲き、水鳥も飛来するなど、豊かな自然環境があります。



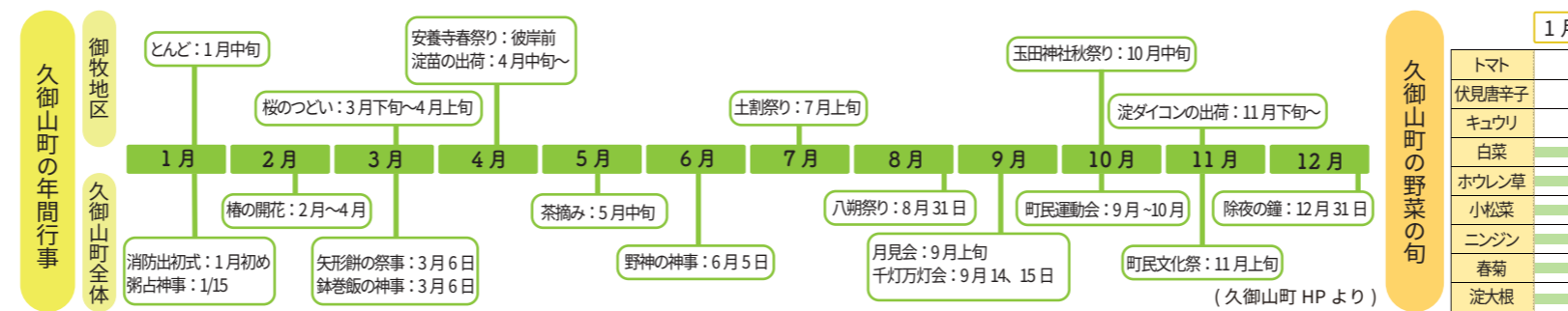
宇治川河川敷の様子。季節の草花が咲く。

まちの公園

久御山町には 13 の都市公園が整備されていますが、御牧地区にあるのはそのうち 3 つのみです。御牧地区には河川敷や田畑など豊かな自然が広がっているが公園の整備状況としては低いエリアだと言えます。町内最大の公園は中央公園であり、御牧地区に隣接する場所に位置しており、御牧地区の住民も利用しています。しかし、地域の交流や子どもの身近な遊び場としては、地区内に 3 箇所あるポケットパークがその役割を担っています。

公園種別	名称	学区	公園種別	名称	学区
近隣公園	久御山中央公園	佐山	街区公園	栄みどり公園	東角
街区公園	栄中央公園	東角	街区公園	栄緑の回廊	東角
街区公園	栄南公園	東角	街区公園	宮ノ川南公園	東角
街区公園	内屋敷公園	佐山	街区公園	北川顔北公園	御牧
街区公園	市田公園	佐山	街区公園	鈴間東公園	佐山
街区公園	佐山南公園	佐山	—	相島ポケットパーク	御牧
街区公園	森ふれあい公園	御牧	—	藤和田ポケットパーク	御牧
街区公園	大内みずべ公園	御牧	—	中島ポケットパーク	御牧

(久御山町ミニ統計書 令和 5 年度版より)



1-1 みまきの基本情報 2025 限られた交通手段と小学校区

限られた地域の交通網

久御山町には鉄道の駅はなく、隣接する市の「京阪淀駅」、「近鉄大久保駅」が最寄り駅であります。それら二つの駅へのバス路線が町内の主要交通であり、まちの駅クロスピアや大型商業施設、佐山、東角地区の各所を繋いでいます。御牧地区内においては地区外周部にしかバス路線がなく、それ以外の場所は予約制のタクシー制度「のってこタクシー」が唯一の地域公共交通として住民の移動手段になっています。



のってこタクシー停留所。電話で予約して、最寄り停留所から目的地の近くの停留所まで乗車することができます。

主要公共施設の立地と利用

久御山町内には、文化、社会教育、スポーツ・レクリエーション、子育て・高齢者支援を目的とした公共施設が比較的豊富にあります。しかし、その立地は佐山地区と東角地区の境に集中しています。今後、新たな施設「グランハット」が開設予定で、御牧地区南側、佐山地区西側の住民の居場所になりえますが、御牧地区の大半は依然として各公共施設へのアクセスに課題があります。

就学前のこどもの居場所としては佐山地区に「あいあいホール」があり、多くの子育て中の親子に利用されています。



あいあいホールでの活動の様子



小学校区と通学路

町制施行時(S29年)久御山町の小学校は御牧小学校と佐山小学校の2校でスタートしました。団地の建設や宅地開発により、S40年代の後半から特に佐山地区の人口が急増し、S50年佐山小学校から東角小学校が分離開校しました。御牧小学校の生徒数は118人(R6)と他2校に対し半数程度ですが、校区の面積は御牧校区が6.33k㎡と、最も広い佐山校区の6.55k㎡と同程度で、地区端部から学校までの通学距離は1.5km(徒歩22分程度)になります。また、御牧地区には町内唯一の中学校があり、各地区から通学することになるため、御牧地区内では小学生、中学生の徒歩・自転車移動が多く発生しています。

	御牧小学校	佐山小学校	東角小学校
人数	118人	264人	213人
面積	6.33k㎡	6.55k㎡	0.84k㎡

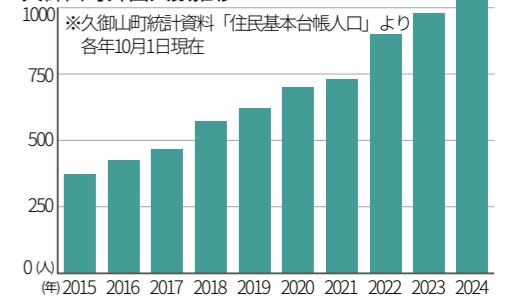
(令和6年度久御山町統計書、令和6年度学校基本調査)
※校区面積は便宜上地区ごとの面積の合計としましたので概算です

外国人割合の高いまち

R7年現在、御牧地区の外国人人口は173人で、地区人口の4.58%を占めます。久御山町全体での外国人人口比率は7.9%と、全国平均の2.2%と比べていずれも大変高い比率です。

またその推移は、H27年時点の御牧地区の外国人人口は55人程度(1.36%)であり、直近10年間で約120人増加(3.22%UP)とという高い増加率であることから、今後もその割合は増える可能性が高いと考えられます。

久御山町外国人推定



外国人農業就労の方にお話を伺った際の様子

1-1 みまきの基本情報 2025 地区の集いの場「公会堂」

1 大橋辺公会堂

集落の入り口あたりに位置し、すぐ近くに宇治川が流れています。



2 北川顔公会堂

角地に位置し、三方田んぼに囲まれています。特徴的な看板が玄関にかかり、目印になっています。



3 藤和田公会堂

府道に近いところにあり、趣のある建物です。入り口には長いスロープがあります。



4 島田公会堂

公会堂の向かいに島田観音地蔵尊があります。木製の看板が地域とともに長い時間を刻んできました。



5 坊之池公会堂

高齢者施設の隣にあります。御牧地区で唯一の2階建ての公会堂でもあります。



6 中島公会堂

点在する住宅群の1つに位置し、「中島公会堂」の文字が印象的です。



<線種凡例>

- 久御山町境界線
- 御牧地区境界線
- 町内境界線



9 相島公会堂

ポケットパークに隣接し、そこから直接公会堂へ出入りすることができます。



10 森公会堂

住宅群のはずれに位置し、田んぼに囲まれています。近隣住民によって定期的に清掃されています。



11 野村公会堂

共同野菜洗い場の隣に位置し、建物の後ろには広大な田んぼが広がります。



7 西一口公会堂

新しく建て替えられ、周辺の住宅群の中でも際立ってきれいです。共同のゴミ捨て場があり町民が定期的に集まります。



8 東一口公会堂

高台の上であり、古川を一望できます。映画鑑賞会などが開催されており、比較的頻繁に使用されています。

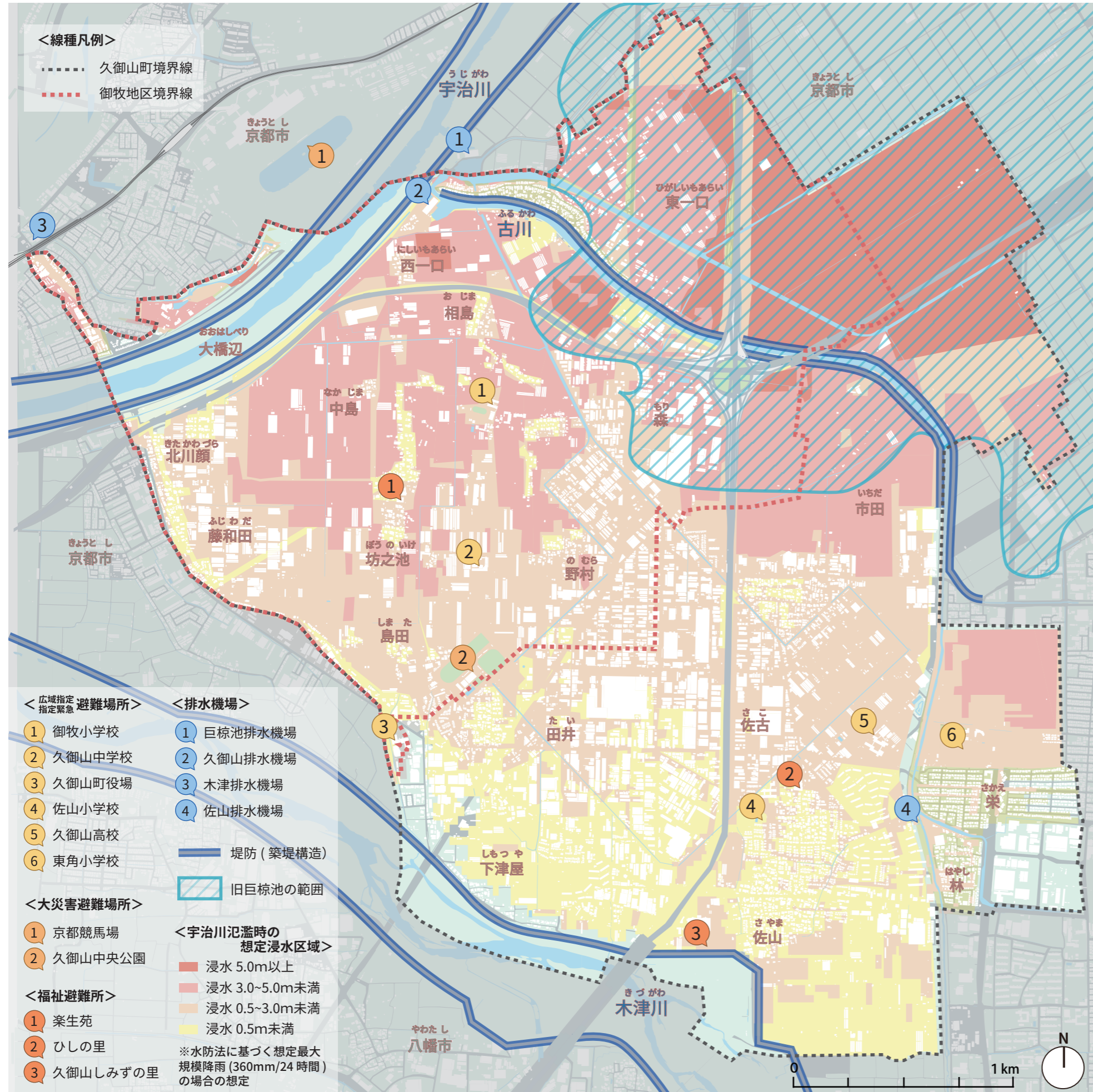


番外 田井公会堂

公園が併設された神社と隣接します。月に3回ほど体操教室などが開催されています。



1-1 みまきの基本情報 2025 川とともに生きるまちの災害ハザード



かつての "巨椋池" から現在のまちの姿へ

久御山町の歴史は、水との闘いの歴史でもあります。かつて巨椋池には宇治川や木津川、桂川などが流入し、一大遊水池でした。度重なる洪水被害により沿岸地域は明治時代まで2、3年に1度は水害に襲われ安定した米の収穫が難しいほどでした。昭和8年から同16年にかけて干拓されましたが、昭和28年の台風の際などには再び水害に見舞われ作物は収穫皆無となることもありました。このように時には災害をもたらした巨椋池ですが、池の信仰から生まれた独自の文化や、今の豊かな農作物の耕作地を有する久御山の礎となっており、今でも住民の心の拠り所として根付いています。



昭和8年以前、巨椋池での浸木漁の様子

河川による災害の歴史

久御山町は山城盆地の中で最も低いところに位置し、その中でも御牧地区は特に低地となっています。北西部には宇治川、町の東部を北流する古川、南部には木津川が流れ、近隣の宇治市、城陽市の雨水等の流水が東一口に集まることから、治水対策は地域の最重要課題でもあります。これまでの災害に目を向けると、明治時代の40年間だけで防波堤が決壊し家屋まで被害を及ぼした洪水は9回を超えます。これらを教訓に木津川や宇治川の改修が継続的に行われ、明治・大正期にかけて現在の流れに付け替えられました。近年最大の災害は昭和28年の台風13号による洪水で、宇治川の決壊により、最大浸水は決壊から約14時間後、佐山地区で1.2m-2.7m、御牧地区の低地では5m以上に及びました。これは町の想定最大浸水深と概ね一致します。治水に関する整備が進んでいるとはいえ、宇治川・木津川が決壊した場合同様の被害が想定でき、今後も過去の例から学ぶ必要があると考えられます。



昭和28年の台風により水没する旧御牧村



昭和28年の台風時の佐山小学校の運動場

地域の災害対策・避難施設

天ヶ瀬ダム・高山ダムの建設等によって洪水被害は解消されつつあります。また、久御山町では、昭和28年の水害以降、堤防の強化、内水排除対策が進められています。昭和48年には久御山排水機場(東一口)、同53年には佐山排水機場(佐山)が完成しました。現巨椋池排水機場は機能強化され平成17年に本格稼働しました。御牧地区は、宇治川の氾濫が最も被害が大きいと想定され、浸水の継続時間はほとんどの地域で72時間(3日間)です。被害の継続時間が長い地域であり、避難所周辺の備蓄の重要性が高いです。



巨椋池排水機場

歴史と日常に安全を学ぶまちづくり

昭和28年の水害の際、町全体が壊滅的に被災したにも関わらず、死者はせず、人的被害を最小限に食い止めることができました。この時、冷静に行動したのは明治の洪水を経験していた高齢者たちであったと言われています。避難時間などの確かな判断と指示を与えて避難した例が多数あり、まさに「先人から伝えられた生活の知恵」が成せる技でした。現在、堤防や排水機場の付近は自然豊かな河川敷公園となっています。それらは憩いの場やこどもたちの遊び場として日常の隣にありながら、まちの安全を守る要です。水との闘いの歴史を伝え、また、先の災害時のように先人からの知恵を学ぶことで、日頃から防災意識を高めるまちづくりが大切だと考えます。